



《退院援助研修②～④》

- ◆会場：ウインクあいち
- ◆企画：退院援助委員会

今号は、退院援助研修第2回～最終回の報告です。第2回では地域包括ケアを支える多職種活動を学び、第3回では医療福祉アセスメントを適切に行うことができる力を身につけ、最終回では在宅医療介護連携推進事業を基点に、在宅医療に関わる多職種連携の実際や課題について意見交換を行いました。退院援助研修は、講師や研修委員がアドバイザー、ファシリテーターとしてグループワークに介入し、時事に即した内容で積極的な意見交換、情報交換ができる充実した研修会です。今年度の退院援助研修会は、延べ126名の方々が参加されました。次年度のご参加もぜひお待ちしております(^▽^)/

第2回 9月24日(土)

テーマ/講師

『地域で活躍する専門職をより深く知ろう!～多職種連携の実際～』

- ／鈴木弘子氏(愛知県薬剤師会 地域医療部会常務理事 薬剤師)、
- ／三角洋美氏(愛知県歯科医師会 在宅歯科医療連携室 歯科衛生士)、
- ／磯貝野英子氏(偕行会 訪問看護ステーションきょうりつPT.)



【講師を交えてのグループワーク】

参加者層は、経験幅が0年～20年と多岐に渡っており、関心の高さは初任者からベテランまでカバーできる内容でした。アンケートの満足度も高く、多職種との積極的な連携の動機付けとして、企画者側の目的も十分に果たされていました。参加者からのインタビューからは、「目からウロコでした!」とのコメントも聞かれており、大変好評でした。

第3回 10月15日(土)

テーマ/講師

『家に帰りたいたい思いを実現させる退院支援』

- ／坂本理恵氏(名古屋第二赤十字病院)、
- ／加藤圭子氏(ハートフルハウス)



【講義と事例検討】

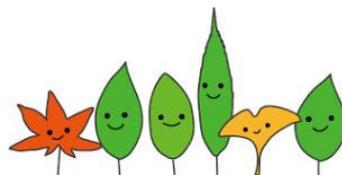
診療報酬の改定後、今まで以上に退院支援への関心が高まっており、経験年数の浅い会員も携わる機会が増えています。業務で実際に使用できるアセスメントシートを活用し、実際に個人作業で活用してみることで、研修後に業務に取り入れることができ、よい「お土産」になったと思います。講義もポイントをおさえたりわかりやすいもので、即実践に役立つ内容でした。

第4回 11月12日(土)

テーマ/講師

『無関係ではいられない在宅医療・介護連携推進事業へのMSWの関わり』

- ／宮崎 仁氏(西尾市医師会)
- ／高野雅子氏(名古屋市医師会)
- ／近藤剛弘氏(津島市医師会)
- ／長尾 貴子氏(総合大雄会病院)



【多職種連携と協働について意見交換】

MSWが積極的に在宅医療連携推進事業に介入し、行政機関や他の関係機関から必要とされることは、MSWの存在意義を示すチャンスでもあり、その意識を促し活用するためには非常にタイムリーな研修内容であったと思います。パネルディスカッションやグループワークにより会場は終始盛り上がり、熱気あふれる雰囲気印象的でした。

【記載者：研修理事 伊藤隆英】